地域おこし協力隊について

今更ですが…地域おこし協力隊とは？

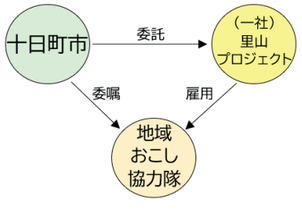
松之山かわら版も第5号となりました。いつも読んでいただきありがとうございます。皆さんの中には「地域おこし協力隊とはそもそもどんな集団？」と疑問に思われている方もいるかもしれません。ということで、今更ではありますが今回はこのページをお借りして「十日町市の地域おこし協力隊」についてご説明いたします。

地域おこし協力隊とは総務省が２００９年から推進する取り組みの一つで《都市地域に住んでいる人が田舎へ移住し、地域おこし支援や地域協力活動などを行いながら定住を目指す》というものです。現在は十日町市で２０名、全国では約６４００名（令和４年度）の隊員が活動しています。

雇用形態は自治体により異なりますが、十日町市では一般社団法人里山プロジェクトが地域おこし協力隊のサポート業務を行っています。そのため私たち十日町市の協力隊は、「一般社団法人里山プロジェクトの従業員」として「十日町市から地域おこし協力隊業務を委嘱」されて活動しています。活動内容は農作業のお手伝いや地域行事等の支援活動、皆さんの生活の支援など様々で、逆に私たちが地域の皆さんに助けられているなぁと思うことの方がたくさんあります。

私たち松之山の協力隊は月に一度「定例会」を開き、その月にどのような活動をしたのかを報告しあい改善点を話し合ったりしています。また、数か月に一度は十日町市全体の協力隊が集まる全体定例会も行っており、自分の地域での活動内容を見直すきっかけにもなっています。

任期は最長3年、私たちは退任後も松之山で暮らすことを目標に日々活動しています。これからもよろしくお願いいたします‼



△協力隊の雇用関係図


△大厳寺高原での全体定例会

松之山かわら版
Matsunoyama Kawaraban
Vol. 05
2023年6月

編集
平本菜緒
平本大輔
ローラン・アントワーヌ
上村祥太郎

「松之山かわら版」は、松之山の地域に所属している地域おこし協力隊の活動広報誌です。

今月のテーマ：松之山の農業と協力隊

田植えの忙しい時期が終わり、だんだんと夏の気配が近づいてきました。田んぼに畑、山菜まで…農業が盛んな松之山。地域おこし協力隊はどのような形で地域の農業に関わっているのか、ご紹介します！
（布川の志水さんは、今号はお休みです）

浦田地区



農作業始まりました！

担当　平本　大輔

4月も終わり、いつの間にか冬が終わりました。浦田はどこもかしこも農作業の音が鳴り、トラクターや田植え機がいろんなところで騒いでいます。今年もいろんな農家の方たちのお手伝いをしましたが、人によって作業方法や水の管理方法などが違いとても勉強になりました。自分たちも毎年、研修という形で代掻きや田植えなど田んぼ作業を行っています。浦田は標高が高いところから低いところまでたくさん田んぼがあり、標高が違うと田植えの時期も違うのでその調整の仕方など、学ぶことがたくさんあります。どこの米もおいしいですがやっぱり自分たちで作った米は格別においしい気がします。

もうすぐ夏が来てあたり一面雑草だらけ…また浦田はたくさんの草刈りの音で賑わう気がします（笑）


△田んぼ代掻き後

研修では、田んぼ作業だけではなく畑にも挑戦をしています。畑は田んぼとは違い細かい水管理はありませんが、雑草との戦いのような気がします。毎年ジャガイモを作っているのですが今年もうまくいくかドキドキです。ジャガイモの作り方は北浦田集落の仲のいいご夫婦に教えていただきました。その作り方の真似をしたら翌年もおいしいジャガイモが収穫でき、感激しました。都内にずっと住んでいたらこの貴重な体験ができずに日々が過ぎていくところでした。一日一日を大事にしながら協力隊の活動を行い、もっと浦田の農業について学んでいきたいと思います。


△浦田のトラクター


△畑ジャガイモ植え作業

川手地区



自然のハーモニー

担当　ローラン・アントワーヌ

私は松之山の自然の豊かさと力強さにとても感心するとともに、畑や田んぼ、森の中で自然と共生して暮らす下川手の住民の皆さんにも大きな敬意を抱いています。

農業活動を積極的に行っている人は、ご高齢の方であっても、自然との関わりにおいて最も積極的な人たちです。彼らは自給自足を実践しているだけでなく、美人林直売所活動を通じて他の多くの人々に食料を提供しています。

私の活動としては、微力ですが田植えのお手伝いをさせていただいたり、個人的には家の周りにある放置された畑の再生や、耕作放棄された田んぼを再生して自然栽培でお米を作る活動を行っています。ここでの農業は、目を覚まし、体を動かす理由を与えてくれます。社交性を養うための会話の題材となるとともに、青少年の教育にとっても有力な実験の対象ともなります。

農家に適切な報酬を与え、若者を惹きつけるためには、野菜や農産物の価格を引き上げるべきだと思います。なぜなら、土地を耕す喜びは、この活動がもたらす心の糧であり、この活動の普及が社会を改善することにほかならないからです。



△田植えの手伝い



△新潟大学生とのお米作りの交流活動





△耕作放棄地を復田する

黒倉集落



「縄文ノ和黒倉」の農業を通した地域活性の取り組み

担当　上村　祥太郎

黒倉集落には継続的かつ発展的な集落存続のための活動組織「縄文ノ和　黒倉」という団体があり、縄文ノ和で共同で管理している田んぼがあります。共同管理の田んぼでは4月終わり頃から杉っぱ拾いなど田んぼ周りの掃除を共同作業として行い、5月20日には田植えを行いました。

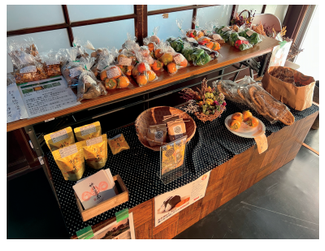
田植えの日には、農家さんだけでなく、集落の子供たちも一緒に参加。私も田植えに参加させていただきました。作業の中で交流が生まれ、この日は無事に田植えを終えることができました。

この共同田んぼで出来上がったお米は秋の収穫祭やウェブサイト上で販売しており、去年は大地の芸術祭の黒倉の作品「パレス黒倉」の勝手市でも販売しました。縄文ノ和では蕎麦も栽培しており、収穫した蕎麦は毎年開催する新そば祭りで、手打ちそばを提供しています。

農業を通じて現在地域活性化のための様々な取り組みを行う縄文ノ和。取り組みの様子は随時ウェブサイトでも公開しています。左のＱＲコードを読み取ってぜひご覧ください。



△農家と一緒に集落の子供達も田植えに参加



△去年「パレス黒倉」でも販売を行った縄文ノ和の新米

縄文ノ和 黒倉の
活動更新中

Jomon no wa
KUROKURA
縄文ノ和 黒倉